



NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

Shangri-la

シャングリラ



現地からの 植林事業報告



100円でヒマラヤに1本の  を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

現 | 地 | 事 | 業



ジーン村、バランジャ村、レスパル村の3村で植林が実施されました。

今年度は何年かに1度訪れる種の不作の年になり、樹種によっては(特にライカニュやニマロ、バダハル)種がほとんど収穫できませんでした。

また、わずかに得たものも不意に降る雹害(ひょうがい)見舞われる等なかなか芽が育たないという残念な年になりました。

これを受けて現地の苗畑管理人を中心に今後さ

らに続くかもしれない気候変動に留意すべく管理委員会によるミーティング行い対策が検討されましたが、不意に訪れる天候の変化にどう対応するか懸案となりました。

今年度の育苗本数はジーン村で16,030本、バランジャ村で10,406本、昨年度から苗畑を新設したパルバット郡のレスパル村では、雹害などはなく、6,664本となり、合計植樹本数は3万3千100本となりました。



2018年2月ごろ、IHC-Nepalスタッフによる苗畑育成が実施されました。当初育成していた樹種は、パインスペチュラ、シルム、ティムール、ライカニュ、バダハル、トゥロファラットです。



植樹は雨季の時期に行われるため、雨の中の作業になりました。村のみんなで雨よけを被つての植樹です。



←ジーン村では、ヤギなどからの食害を防ぐためにフェンスを3月と5月の2回に分けて作成しました。

現地事業

のつづき



環境デーに合わせて、現地の森林レンジャーと IHC-Nepalスタッフによる環境を考えるイベントが開催されました。学生や子供たち、現地住民と一緒に今世界の森で何が起きていることや、植樹の大切さ、またプラスチックゴミについての環境の影響について講義がありました。講義の後は、皆で植林を行いました。



バランジャ村ハニーハンティング・レポート



ネパールではヒマラヤオオミツバチ (*Apis laboriosa*) が断崖絶壁に作った巣から天然のハチミツを捕る、「ハニーハンティング」の伝統があります。セイヨウオオミツバチは全長3センチにもなる大型ミツバチで、2,500~3,000mの高地に営巣することで知られています。このハチミツは入手困難なことから、「幻のハチミツ」としても知られています。調査地のバランジャ村では、ハニーハンティングの伝統がいまでも息づいており、幸運にも2018年6月の渡航期間中に参加することができました。

1. バランジャ村の中心から西方面に小一時間ほど歩いた崖(ドローンで撮影)

2. 崖の撮影地点から約10mの高さにあるセイヨウオオミツバチの巣。

3,4. 火を焚いて巣をいぶす準備に取り掛かるハンター。自生するチラウニ(ヒメツバキ属メダングタル)の木が用いられる。煙でいぶすことで、ハチは人間を攻撃してこなくなる。



5. いぶす前のハチに覆われている状態の巣。最大長辺は約1.5m。

6. 巣の防衛のために戦闘態勢となるハチの巣。黄色い巣の本体があらわとなる。

7. ハンターは2m長の枝打ち鎌、バケツ、バケツの支え棒、の3点のみ携えてはしごを降りてゆく竹とロープで組んだ粗製の縄はしごを、巣の真横を通すように崖上からかける。

8. 根元部分から削り取るようにハチの巣を捕る。切られた巣の本体からはポタポタとハチミツが流れ落ちる。

9. 捕られたハチの巣本体。白い幼虫は蜂の子。生きたまま食すと美味で、イクラの触感に似ている。

10,11. 家に持ち帰ったハチの巣からハチミツを搾り取る作業。全採集量は1.5ℓのペットボトル5~6本分(7.5~9.0ℓ)となった。



採集されたハチミツは濁っており、ビロード状の輝きがありさまざまな花粉の混入がわかります。味は漢方薬のような粉っぽさがあり、一味で薬効成分があると理解できます。

ネパール中部のほかの事業地でもハニーハンティングが実践されており、今後は伝統文化のドキュメンテーションも行っていきたいと思います。(文責：相馬拓也)

国内活動

理事
佐久間雅俊

グローバルフェスタ2018に出展いたしました！



9月29日(土)と30日(日)に毎年恒例の国際協力関連団体のフェスティバルであるグローバルフェスタ2018が開催されました! ……と言いたいところですが、今年は台風の来襲のせいで土曜日1日だけの開催となりました。

団体のブースとは別に活動報告コーナーでの報告を行いました。1970年代から90年代にかけての川喜田先生時代のロープラインや植林活動のムービーを紹介し、現在の生活林保全や織物・紙製品による収入向上プロジェクトまでつながっていることをお話しました。聴講者の中には報告会終了後すぐにブースを訪れ製品を購入された方もいらっしゃいました。

また、この報告で織物製品のデザインをお客様から募集するという企画も催しました。応募していただいたデザインがよいものであれば、実際にネパールの現地でこれを製品化しようというものです。これはこのグローバルフェスタに限らず普段から募集をしておりますので、ご興味のある方はメールなどでIHC事務局までご連絡いただける

と幸いです。

ブースでは例年通り協力企業であるアミナコレクションさんのかわいいアジア雑貨、ポカラの女性への職業訓練支援団体であるWSDOの製品や、ヒマラヤ保全協会オリジナルのイラクサの繊維を用いた帽子を販売しました。アミナさんのカレンダーは毎年好評ですが、オリジナルのイラクサ帽子も負けずの人気です。この帽子は、理事の清田のネットショップにて販売がされています。是非一度サイトをご覧ください!

(<https://himalaya.official.ec/>)

ブースでは私達の活動の説明も行いました。何人の方が熱心に話を聴きにきてくださり、当団体の活動が植林を基にした自然環境改善活動をベースとし、それが生活改善・収入向上へ、それがまた地域の自然環境改善へと循環するとモデルであることを来訪者の皆さんに説明すると、「良い活動だということが分かりやすい」とお褒めいただいたのが個人的には嬉しく思いました。

開催日が一日のみになってしまったのは残念でしたが、実りのある一日でした。

第1回 ネパール語を学ぶ…動詞（ラグヌ）をトピックにして…

ナマステ。IHCにはネパール語に関心ある会員もおられるのではということで、ネパール語の習得に役立つようなトピックを提供することになりました。初回は（ラグヌ）という動詞をとりあげます。（ラグヌ）には「くっつく（付着する）」という意味があり、様々な名詞、形容詞をくっつける形のたくさんの表現が作れます。➤

➤例えば、驚き（アツアマ）がくっつく（ラグツァ）で驚く（アツアマラグツァ）のように。こうした表現は日本語にはないもので私は興味深く感じています。なお、（ラグヌ）の現在形が（ラグツァ）、過去形は（ラギョ）で、後者を多く使用します。以下は表現例です。是非使ってみてください。

①「疲れ（タカイ）」が「くっついた（ラギョ）」→「疲れた（タカイラギョ）」

以下、同様に、

②「空腹（ボォク）」→「腹がすいた（ボォクラギョ）」

③「嬉しさ（クシ）」→「嬉しい（クシラギョ）」

④「つらさ（ドゥッカ）」→「つらい（ドゥッカラギョ）」

⑤「風邪（ルガ）」→「風邪ひいた（ルガラギョ）」

⑥「眠気（ニンドラ）」→「眠たい（ニンドララギョ）」

⑦「おいしい（ミト）」→「おいしい（ミトラギョ）」

⑧「面白い（ラマイロ）」→「面白い（ラマイロラギョ）」

⑨「どのくらい？（カティ?）」が「くっつく（ラグツァ）」→
「どのくらい（お金、時間）かかる？（カティラグツァ?）」

こうした表現がいくらでもあるので、

⑩「もうたくさん（ワッカラギョ）」になりそうですが、最後に便利な表現方法の一つ。

⑪動詞の（ナ）の語尾の形に「気持ち（マン）」をつなげてから（ラグツァ、ラギョ）で結ぶと、「～～する気がある、～～したい」という表現が自由に作れます。

ex.「食べる気がある、食べたい（カナマンラギョ）」「行く気がある、行きたい（ザナマンラギョ）」「見たい（ヘルナマンラギョ）」話したい（クラガルナマンラギョ）」これもきりがないのでこのへんで「終わりにしたい（シィッヂャウナマンラギョ）」です。それでは、フェリベトン、ラ！（文責：布施達治）



写真で振り返るIHCの活動

村人（村の女性たち）のお仕事と暮らし

ヒマラヤ保全協会は1974年に川喜田二郎氏によって設立された「ヒマラヤ技術協力会（ATCHA）」を前身として、40年以上におよぶネパール・ヒマラヤ地域の絆があります。ここでは、IHC文庫から発掘された秘蔵写真から、かつての活動を振り返ってみたいと思います（※写真の正確な日付はわかりません）。



事務局 だより

名称変更のお知らせ

2018年9月13日以降、名称が下記の通り変更となりました。

旧： 認定NPO法人ヒマラヤ保全協会
新： NPO法人ヒマラヤ保全協会

名称変更に伴い、寄付控除が適用されなくなります。

9月13日以降、ご寄附をお寄せいただく場合はご承知おきのほどよろしくお願ひします。

変更後も変わらず現地への支援を続けてまいります。引き続き皆様のご支援お待ちしております。

イベント情報

12月23日(日) 雲南講話会にて

ヒマラヤイラクサの帽子等を販売します

12月23日(日)13:00~
場所；JICA市ヶ谷ビル
(東京都新宿区市谷本村町
10-5)

雲南講話会ホームページ：
<https://www.yunnan-k.jp/yunnan-k/>



老若男女問わず、
似合うヒマラヤ
イラクサの帽子です！

ヒマラヤイラクサの帽子は、清田理事のネットショップ「Himalaya Shop」でも販売しております。<https://himalaya.official.ec>



寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます!!
1口 3,000円から何口でも結構です。
下記の振込み先にご送金ください。

マンスリーサポーターになる

毎月 1,000円 からマンスリーサポーターになることができます。マンスリーサポーターの皆様には、「活動報告書&計画書」年1回)をお送りします。

会員になる

年会費：個人会員 5,000円・団体会員 30,000円
会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの会報『シャングリラ(Shangri-la)』をおとどけします。

■ みずほ銀行新宿南口支店
普通2005209

NPO法人 ヒマラヤ保全協会

■ 郵便振替

00100-0-709154

ヒマラヤ保全協会

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、ご氏名(ふりがな)とご住所を、e-mailにてご連絡ください。

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第103号 2018年11月7日発行 編集・発行 NPO法人 ヒマラヤ保全協会
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス9号館 8階 808号室
TEL: 080-3570-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>